

第504号 10月号 2026.10.20

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

柳ヶ瀬に恐竜が咆哮！15年の歴史に幕を下ろす 柳ヶ瀬ジュラシックアーケード ファイナル

◆主催：柳ヶ瀬ジュラシックアーケード実行委員会

岐阜市の中心市街地、柳ヶ瀬商店街で毎年恒例となっていた人気イベント、「柳ヶ瀬ジュラシックアーケード ファイナル」が、2026年9月12日・13日の2日間開催され、約5万人の人で賑わいました。

今年で15回目となるこのイベントは、今回の開催をもって惜しまれつつも最終回を迎えました。商店街のアーケード下に巨大な恐竜たちが姿を現し、多くの家族連れで賑わう光景もこれで見納めとなります。

イベントの実行委員長である平田さんに、このイベントについての想いを伺いました。



▲迫力あるティラノサウルスの動く模型

■ 商店街活性化の願いを込めて

「このイベントが始まったのは15年前で、当時、家族連れの客足が遠のいていた商店街に新たな活気を呼び込もうと、企画されたのがきっかけでした。食品サンプル製造で有名な郡

上市が、動く恐竜の模型製作も行っていたことから、『地元の技術を活かした地産地消のイベントを』という発想で、恐竜をテーマにしました」。

折しも、商店街への補助金交付という追い風もあり、第1回が実現。それ以来、柳ヶ瀬の夏の風物詩として定着し、多くの人々に親しまれてきました。

■ 街を巡り、思い出を作る

イベントの核は、商店街に点在する9体の恐竜を探し出すクイズラリーです。参加者はクイズシートを手に、巨大な恐竜たちを探しながらアーケード内を巡ります。これは、来場者に商店街全体を回遊してもらい、街の魅力を再発見してもらうことも目的としています。

平田さんは、「15年間、多くの皆さんに柳ヶ瀬での思い出作りをしてもらえたことが、何よ



▲化石のレプリカ作り体験のワークショップ

り嬉しい」と話されました。そして、「ここで楽しんだ子どもたちが大人になった時、『子どもの頃にあんな場所へ行ったな』と、縁日のような感覚で思い出してくれたら」と、イベントに込めた長期的な願いを明かしました。

■ 盛況の裏で直面する課題と新たな試み

多くの来場者で賑わう一方で、運営は年々厳しさを増していたようです。

「一番の課題は費用。コストが年々高騰し、商店街の予算だけでは運営が難しくなってきました」。

こうした状況を打開するため、今回はクラウドファンディング形式で、広く支援を募る試みも行われました。また、商店街のフラッグ広告枠や看板への名前掲載権などを販売し、集まった資金はすべて今回の運営費に充てられたそうです。「もっと多くの広告枠を用意すればよかったと後悔しているほど、すぐに完売しました。皆さんの協力は本当にありがたかった」と平田さんは振り返りました。

また、運営を担う人材不足も、様々な商店街が抱える共通の課題です。ボランティアで運営に携わる商店主たちの負担は大きく、次世代の担い手をいかに育てていくかが、今後の鍵となります。

■ 未来へつなぐ、学びと交流の場

最終回となる今回は、新たな企画として、瑞浪

市化石博物館によるワークショップや、恐竜・古生物学を学べる東京E C O動物海洋専門学校と連携した、「化石ふれあい体験館」も設置されました。ティラノサウルスの実寸頭部骨格標本の展示や本物の化石に触れたり、専門的な知識を学んだりする機会は、子どもたちに新たな発見と感動を与える場となりました。



▲「化石ふれあい体験館」に置かれたティラノサウルスの実寸頭部骨格標本

「ジュラシックアーケード」は幕を閉じますが、このイベントが育んだ商店街内の結束や地域とのつながりは、決して消えることはありません。一つの時代を築いた恐竜たちは去りますが、このイベントが残した賑わいと数々の思い出は、柳ヶ瀬の未来を考える新たな出発点となると思います。

半世紀の歴史を未来へつなぐ地域一丸の挑戦 ろっけん通り歩行者天国

◆主催：ろっけん通り歩行者天国実行委員会

各務原市蘇原に広がる「ろっけん通り」で、9月12日に今回で49回目となる、「ろっけん通り歩行者天国」が開催されました。当日は天気心配されましたが、日差しが降り注いで暑い日となり、全てのイベントが予定通り開催されました。半世紀近く続くこの伝統的なイベントは、今年、運営体制の変更という大きな転換点を迎

えました。実行委員会の事務局長である池戸さんにお話を伺いました。

■ 半世紀の歴史と新たな船出

「この祭りは約50年前、当時の商店街の若手商店主たちが、『何かやろう』と立ち上げたが始まりです。以来、蘇原地区の夏の風物詩として親



▲日本一2連覇中、各務原太鼓保存会の圧巻のパフォーマンスで幕を開けた開会式

しまれ、入れ替わり立ち替わりで、延べ約1万人が訪れる各務原市内でも屈指の一大イベントになりました」。

各務原の夏を象徴するイベントですが、長年主催してきた蘇原中央通商店街振興組合は、店主たちの高齢化や後継者不足を理由に、今年、解散を決定。祭りの歴史に幕が下ろされる危機に直面しましたが、この事態を受け、地域の有志たちが立ち上がり、「ろっけん通り歩行者天国実行委員会」が単独で運営を引き継ぎました。

「歴史ある祭りを絶やすわけにはいかない！」という強い思いが、新たな船出を後押ししました。

「実行委員会は、これまでは商店街組合の下部組織でしたが、今年から完全に独立しました。市の補助金もなくなり、協賛金と多くの皆さんの協力で何とか開催にこぎつけています」と、池戸さんは運営の厳しさを話されました。



▲陽が沈みかけたころには通りには多くの人出が

■ 地域を繋ぐボランティアの輪

「祭りの成功は、多くのボランティアの力に支えられています。企画運営の中心を担うのは、10人ほどの実行委員ですが、当日は自衛隊岐阜基地の隊員有志や地元企業、地元の消防団、さらには福祉施設の関係者など、総勢200名近いボランティアが、警備やゴミの分別・回収などに力を貸してくれています」。

池戸さんが語るように、その運営は地域の人間関係に深く根ざしています。

「誰かが『頼むよ』と言えば、『分かりました』と必ず応えてくれます。地元の皆さんの協力なしには成り立ちません」と、感謝の言葉を続けました。

■ 課題を乗り越え、未来への模索

運営を引き継いだ実行委員会ですが、将来に向けた課題は少なくありません。最大の懸念は資金面です。

池戸さんは、「人の心配は、ありがたいことにあまりしていませんが、資金の確保が一番の課題です」と明かしました。企業からの協賛金に加え、クラウドファンディングのような新たな資金調達方法も模索しているとのこと。

現時点では顕在化していませんが、将来的には担い手不足も潜在的な問題です。これはろっけん通りに限らず、全国の商店街が抱える共通の悩みといえます。かつて賑わった通りも、店主の高齢化とともに店を閉じ、そのまま住居となっているため、新しい活気が生まれにくい構



▲イベントを象徴する盆踊り、生演奏による郡上おどり「かわさき」に多くの人の輪が

造的な問題も抱えています。

それでも、実行委員会は未来を見据えています。来年に控える第50回の記念開催に向けて、「皆がワクワクするような、大きなことを仕掛けたい」と池戸さんは意気込んでいます。

祭りを核に、eスポーツ大会の開催や、地元企業「日本一ソフトウェア」の強みを生かしたゲームの街づくりなど、新たな街の魅力創出にも夢

を膨らませています。

半世紀の節目を前に、ろっけん通り歩行者天国は、単なる一過性のイベントから、地域の未来を創造する原動力へと進化しようとしています。伝統を守りながらも変化を恐れず挑戦を続ける姿は、地域コミュニティが持つ底力と可能性を力強く示しているように感じました。

みのじのみのり祭

雨の中の3on3バスケット大会とまちづくりの新たな挑戦

◆主催：恵那市商店街振興組合

2026年9月26日、恵那市中心部で毎年恒例「ENAみのじのみのり祭」の協賛イベントである、「3on3ストリートバスケット大会」が開催されました。

検討しており、すごろくフリースロー大会での実施を決定。小学生から一般まで、参加者たちは形を変えた勝負に挑んでいました。



▲小学生の部の参加者

当日は生憎の悪天候のため安全を最優先し、フリースロー大会へと形を変えたものの、たくさんさんのバスケット愛好者が集まり、未来への新たな展望を示す一日となりました。

■ 世代を超えて愛される3on3、雨中の決行

中山道沿いを舞台に、34年の歴史を刻む3on3ストリートバスケット大会。今年は、前日からの本降りです路面コンディションが悪化したため、クッションフロアの敷設ができず、ゲーム形式での開催は断念されました。しかし、主催する恵那市商店街振興組合は、雨天対策も事前に



▲雨の中で行われた一般の部の白熱した決勝戦

大塚理事長に、このイベントについてお話を伺いました。

「このイベントは、途中コロナ禍の開催中止もありましたが、40年近く前から続いており、今や親子二世帯で参加する家族も珍しくない、地域コミュニティの象徴的なイベントになっています。当初は手作りの小さな催しでしたが、地道な活動と駐車場事業の収入で財政基盤も安定し、今では商店街の人たちだけではできないことを、応援してくれる市民の方々と一緒に祭りを盛り上げていくイベントになりました。審判やMCも、地元の愛好家や保護者がボランティア

アで支える、『参加型』の運営になっています。今回は日程が合わなかったのですが、毎年、多治見市を拠点とするプロバスケットボールチームのGIFU SEIRYU HEROESも参加してくれます。天気が良ければ夜にはナイター照明が灯る中で、商店街を神輿が練り歩き、神輿の見物客やバスケットのお客さんで、この辺りは500人くらいの人で溢れ返ります。今日は残念ながら雨なので、そこまでの人ではないですが」。

一般の部の決勝戦の前には、選手や観客を対象としたフリースローゲームも行われました。こちらは一回で入れば景品がもらえるゲームで、会場の前に出店していたキッチンカーからの商品提供もあり、生憎の雨模様にも関わらず、多くの人で盛り上がっていました。



▲末広通りを練り歩く神輿の行列

■ 持続可能な祭りへ、商店街の新たな挑戦

この祭りの背景には、商店街が直面する高齢

化や人手不足といった課題を乗り越えようとする、より大きな挑戦があります。大塚理事長は、従来の「持ち出し」でのイベント運営から脱却し、助成金と収益事業を組み合わせた持続可能なモデルの構築を目指しています。

将来的には「まちづくり会社」の設立を目指し、商店街、市役所、「まちづくり会社」が三位一体となり、資金と人材を確保する構想を描いています。高校生や大学生を時給制のアルバイトとして、各商店街に派遣する仕組みはすでに稼働し、現場の負担軽減に繋がっています。さらに、駐車場事業の収益に加え、新規事業で得た利益を地域イベントに還元する計画も進んでいます。

大塚理事長は、「いつまでも我々がやるのではなく、道だけは作って、あとは若い人が上に乗っていけばいい」と語ります。イベントの企画・運営の仕組みを刷新することで、次世代が地域の活動に参加しやすい土壌を育むことが狙いです。

恵那を訪れるたびにと思いますが、恵那の商店街は「元気がいい」です。

今回、雨という予期せぬ困難に見舞われましたが、かえって恵那市の商店街が持つ柔軟性と、未来への強い意志を浮き彫りにしたようにも思えます。一過性の賑わいで終わらせない、地域経済とコミュニティの活力を育むための挑戦は、地方の未来を考える上での確かな道しるべとなると思います。

【取材・記事 中小企業診断士 田口尚正】

■ 組合員講習会のお知らせ

岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会

日 時：令和8年11月16日(月) 18:00～19:30

場 所：ロイヤル劇場ビル（岐阜市日ノ出町1-20）

テーマ：「七日町商店街再生の歩みと景観整備がもたらす効果について」

講 師：山形まちづくり株式会社 常務取締役 下田孝志氏

高山市商店街振興組合連合会

日 時：令和8年11月16日(月) 19:00～21:00

場 所：村半（高山市下二之町6）

テーマ：「SNS活用と動画制作の基本を学ぶ」

講 師：Office DROPS 代表 石井克成氏

これからの商店街再生を考える

商店街活性化 フォーラム

参加
無料

新たな担い手が集まる魅力あるまちづくり

近年、多くの商店街では商業者の高齢化や後継者不足、空き店舗の増加等が課題となっています。

一方で、地域資源を活かしたまちづくりや創業支援の取り組みにより、

若手後継者や新たな創業者を呼び込み、活性化に成功している地域もみられます。

本フォーラムでは、商店街における後継者育成や地域資源を活用したまちづくりについてのお話、

また、創業を支援する方や実際に創業した方のお話をお伺いし、

新たな担い手が集まる魅力あるまちづくりについて学びましょう！

開催
日時

令和8年11月24日(火) 13:30~16:40

開催場所

ホテルグランヴェール岐山 3階 末広
(岐阜市柳ヶ瀬通6-14)

定員

50名(先着順)

※お申込みが必要です。

登壇者プロフィール



足立 基浩氏

・和歌山大学
副学長・経済学部教授
・全国商店街振興組合連合会
近代化研究会 委員長



東 恵理子氏

・株式会社
東美濃ピアワークス
代表取締役社長



水野 琢朗氏

・岐阜柳ヶ瀬商店街
振興組合連合会
理事長
・株式会社皇月屋
代表取締役



成田 渚氏

・御八あんやなぎ
オーナーシェフ



古井 千景氏

・恵那市商店街振興組合
空き店舗対策委員会 委員
・株式会社ココアイ
代表取締役

■主催／岐阜県商店街振興組合連合会

この事業は、岐阜県からの補助金を受けています。

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。